

身近にある税金

所沢市立南陵中学校

三年 鈴木 爽風

私達の生活の「当たり前」は税金によって支えられていることを、どのくらいの人を知っているのだろうか。

突然だが、あなたは税金について詳しく説明できるだろうか。国民の義務であり、国の財産である、といった基本的なことは説明できるだろう。では、その「使われ方」や「決め方」についてはどうだろう。この質問をされたとき、私はすぐに答えられない。それは税金が集められたその後について知らないことのほうが多いからだ。

実際に調べてみると街には税金によって支えられているものが多くあった。学校の教科書や子供たちが遊べる公園。道路やその上を走る救急車。いつも気に留めていないだけで税金は身近に存在しているのだ。

では、それはどのように決められて使われているのだろうか。意外にも、法律で定められているわけではない。「国会で議決する」という法律のもと、議員によって決められているのだ。しかし、無関係というわけではない。議員は選挙によって決められる。立候補者は税金の使い方である公約を掲げ、当選した場合には税金の一部が給料として払われる。その議員を決める選挙権は私達にあるのだ。つまり、間接的ではあるが私達は選挙を通じて税金の使い方を決めているのだ。税金の使い方は「決め

られている」ではなく投票によって「決めていく」のだ。このことを知ること、自然と選挙への意識も高まるのではないだろうか。

外出した際、真剣に値札を見る人、商品の品質を見比べる人を見かける。家に帰ってから家計簿やお小遣い帳をつける人も少なくないのではないだろうか。それはきっと、お金に対して「大切なもの」という意識があるからだろう。それなのに、税金のことになると無関心になってしまうのはあまりにも無責任ではないだろうか。このような温度差が生まれてしまうのは税金が私達にとつて遠く、難しいものであるというイメージが強いからだと思ふ。

今回、私は税金の「使われ方」とその「決め方」について調べた。普段何気なく払っている税金について知るとは、社会のあり方について知り、考える第一歩になると思つたからだ。税金と聞くと、堅苦しく難しいイメージを抱きがちだが、そうではない。私達の思っているよりずっと近くにあることを今回知ることができた。税金について知るとはその「使い方」を「決める」ことに繋がり、生活がより豊かになる。一人ひとりが税金について知り、自分の考えをもつことで今よりいい社会に繋がると私は信じている。